

鷹巣誠一作 「春うらら」

- (効果音) (教室のガヤ)
- 先生 高校生活も 1 週間が過ぎたが、少しは慣れたか？ いつまでも中学生のように甘えてはいられないぞ。高校は義務教育ではないんだから、一人一人がちゃんと目的を持って学校に来てもらわなくては困るからな。さて、そろそろ学校の様子も分かってきただろうから、この辺でクラス委員を決めなくてはならないのだが、だれか立候補するものはいないか？
- (効果音) (ガヤ)
- 小山雅子 敬子、あなたやりなさいよ。中学の時にもやってたじゃない。
- 鈴木敬子 え、またわたしが？
- 雅子 そうよ。敬子ならリーダーシップもあるし、絶対できるわよ。
- 敬子 でも、新しい学校だし、不安だわ。
- 雅子 大丈夫よ。実はさあ、昨日、良夫のうちへ遊びに行ったら、彼、クラス委員になったって言ってたわ。ほら、あたしと彼の仲でしょ。彼もいろいろと力になってくれると思うしさ。
- 敬子 まあ、雅子ったらしっかりのろけてるんだから。
- 雅子 へへ、分かった？
- 敬子 でも、そうね。良夫君だったら頼りになるかもね。
- ナレーション 鈴木敬子と小山雅子は中学時代から自他共に認める親友同士。この春、仲良く同じ高校の同じクラスに収まることができたのです。そして雅子のボーイフレンドの高田良夫は隣のクラス。時は 4 月、春うらら、雅子にとっては新しい高校生活への期待と、友達が近くにいる安心感とで胸がいっぱいでした。
- (効果音) (教室のガヤ)
- 先生 さあさあ、もういいかな？ 立候補する者はいるか？ いないのか。じゃあだれか推薦を出してくれ。
- 雅子 はい、鈴木敬子さんがいいと思います。中学の時にもクラス委員をしていたし、リーダーシップもあると思います。
- 先生 ほかにはいないか？ では鈴木でいいと思うものは手を挙げて。(少し間)よし、では女子のクラス委員は鈴木にする。じゃあ鈴木、前へ出てきてあと 1 人、男子のクラス委員を皆で決めてくれ。
- ナレーション こうして、この日のホームルームは終わり、その帰り道
- 雅子 ねえねえ敬子、今日の日曜日、良夫と 3 人で映画に行かない？
- 敬子 わたしも？ でも雅子に悪いわ。せっかくのデートなのに。
- 雅子 何言ってるのよ、今更。あたしと敬子の仲間じゃん。それにさあ、敬子がクラス委

員になったことを言ったらね、「そいじゃひとつ面倒を見てやるか」ですって。彼って優しいのよねえ～。

敬子 それはそれは。

雅子 でも彼ったら、わたしと2人だけのときは結構冷たいのよ。

敬子 ほう。

雅子 でも、そんなところがまたいいのよねえ。頼りがいはあるし、あたし彼のためなら死んでもいい、なんちゃって。キヤー恥ずかしい。じゃあ敬子、またあしたね。パーイ。

敬子(モノログ) 全くもう。一人で浮かれてるんだから。良夫君か…。でも彼は雅子のだもんね。わたしもだれかいらないかな。

ナレーション そしてその日曜日、楽しく映画を見終わったあとで。

(効果音) (都会の雑踏)

敬子 あら、もう6時。あたし、帰らなきゃ。

良夫 えー、もう少しいいじゃないか。どこかで夕飯食べていこうよ。

敬子 ありがとう。でもちょっと用事があるから帰るわ。今日はとても楽しかった。

雅子 ごめんね。わたしばかりしゃべっちゃって。

敬子 そんなことない。本当に楽しかったわ。あとは2人でごゆっくりどうぞ。

雅子 そう。じゃ気をつけて帰ってね。バイバイ。

ナレーション お聴きのとおり、楽しくその日は終わったかに見えたのですが…。

次の日。

敬子 雅子おはよう。昨日はありがとう。本当に楽しかったわ。ねえねえ、あれからどこで食事したの？ちゃんと送ってもらったんでしょ？どうしたのね、ねえ。雅子がそんな顔してるなんて、今日は雨でも降るわよ。ねえったら。…どうしたの、雅子。泣いてるの？

雅子 なんでもないの。ほっといて。

敬子 何かあったのね、良夫君と。

(効果音) (雅子、走り去る)

敬子 あ、雅子、雅子～！

(音楽) (ブリッジ)

雅子(モノログ) 敬子、ごめん。わたしたち親友なのに。でもダメなの。今は話せないわ。わたし、見事にフラれちゃったのよ。あの夜、敬子と別れたあと、彼ったら。

良夫(エコー) お前は少しうるさすぎるんだよ。

雅子(モノログ) どうして？あんなに楽しいと思ってたのに。家の前まで来た時に。

良夫(エコー) やっぱりおれたち、別れよう。

雅子(モノログ) どうして！…いいえ、わたしには分かってる。彼、敬子が好きになったのよ。あのあと。

良夫(エコー) どうしてお前は、敬子ちゃんのように少しはおとなしくしてられないんだよ。

雅子(エコー) そればかり。わたし、どうしたらいいの？ こんなに良夫のこと好きなのに。愛してるのに！ だからいつも良夫の前では楽しく振る舞っていたのに。どうして良夫はわたしを愛してくれないの？ “好きになる”って何？ “愛する”ってどういうことなの？ (多重エコー)

ナレーション 雅子はその1週間、学校へ行っても家へ帰っても、なんにも手につきませんでした。相談できるような友達もまだできていませんでしたし、まして親友の敬子に相談するわけにもいかず、夕暮れの街を歩いていると、ふと教会の前に張ってあるポスターに目が留まりました。底には「高校生の集い -あなたには愛してくれる人がいますか？-」と書かれていました。雅子はもしかしたら何かあるかもしれないと思って、勇気を出して入ってみました。

牧師 皆さん、こんばんは。新しい方も見えていますね。心から歓迎します。さて、今日のテーマは、「あなたは愛してくれる人がいますか？」という大変ユニークなテーマですが、皆さんは愛されていますか？ 両親とか、友達とか先生とか。でも皆さんが一番関心があるのは異性の友達のことですよね？ 皆は高校生だから、もう好きな人はいるでしょう。今、恋愛の真っ最中かな。それとも失恋したばかりですか？

雅子(モノローグ) え?! あの人、わたしのこと...まさか！ 来なければよかった。

牧師 皆が今、どんな気持ちを持っているか、どんな愛を胸に抱いているか、わたしには分かりません。でも、その自分の愛に自信が持てますか？ (F0)

ナレーション 牧師先生はこのように、大変親しみやすく、分かりやすく“愛”について語ってくれました。人間の持っている愛と神様の愛の違い。人間は自己中心の罪のために、人を心から愛することができないこと。本当の愛は神様の中にだけあり、その愛をもってわたしたち一人一人を愛してくださっていること。そのためにイエス・キリストが、わたしたちの罪の身代わりに、十字架に架かって死んでくださったこと。神様は決して裏切ることがないことなど。雅子にとっては、初めて聞いたことばかりでした。

雅子(モノローグ) 神様は裏切らない？ 本当かしら。今までなんとなく神様はいるんじゃないかと思ってたけど、その神様がわたしを愛していてくれるなんてこと、考えてもみなかったわ。神様なんて目に見えない、遠い、わたしには何の関係もない存在だと思ってたわ。でも違うのかな。

牧師 (F1) 皆は神様なんか目に見えないから本当にいるのかどうか分からないと思っているでしょう？ でもね、この聖書を読んで、イエス・キリストというお方のことを探し求めていくと、本当にこの方が神のみ子、人となられた神様だということが分かります。そして、まことの愛は、このお方の十字架にのみあることです。皆さん、人間の持っている愛は、実に弱く自己中心的です。それはすぐに

移り変わっていきます。あなたはその人間の愛に限界を感じませんか？ 今、失望していませんか？ (F0)

雅子(モノローグ) どうして分かるの？ そうよ、わたしは失望してるわ。良夫はわたしを愛してくれなくなってしまった。いいえ、本当に良夫はわたしを愛してくれていたのかしら。それに、わたし、敬子を避けている。ううん、心のどこかで憎んでるんだわ。あんなに仲良かったのに、たった一つのことでも口も聞けなくなっちゃうなんて。わたしの持ってた愛ってなんだったの？ あの牧師さんが言っていること、イエス・キリストがわたしのために死んだってこと、本当かなあ。ウソよ、そんなこと...でももし、もしそれが本当だったら？

牧師 (F1) 皆は毎日の生活の中で自分を振り返る時間がありますか？ あなたは自分の本当の姿を知っていますか？ 今日、ぜひゆっくりと考えてください。高校生という時は大事な時です。今こそじっくりと自分を見詰め直してください。(F0)

雅子 そうだわ。わたし、今まで自分を見詰めるなんてことなかった。良夫とだって、ただ一緒にいて楽しくて、それで満足してた。でも彼にフラれて初めて気がついた。今まで浮かれてて気がつかなかった。自分って何？ 生きるって何？ 本当に人を愛するってどういうこと？ どうしたらそうになれるの？ 神様、教えて！

ナレーション 雅子はいつしか、心の中で必死に問いかけていました。そして、「あの中に答えがあるに違いない」と、牧師の手にある聖書を、食い入るように見詰めていたのです。

< 完 >